

セカンド ステージ

栃木県日光市の大島哲子さん(68)は30年以上勤めた生命保険会社を退職し、2014年に作新学院大(同県宇都宮市)人間文化学部に入學した。卒業論文も書き終え、今春の卒業を待つばかりだ。

高校卒業後に就職。営業職として働く中で人間の心理に興味を持ち、「学問としての心理学を勉強したいと思った」ことが進学のきっかけだった。インターネットで情報を集め、オープンキャンパスにも足を運んで作新学院大を選んだ。

母親の介護もあったために家族に理解を求めた。20歳前後の若者に囲まれての授業は「なじむのに苦労し

仕事や子育てが一段落してふと考える。「もう一度ちゃんと勉強したい」。大学や大学院への入学はハードルが高そうだが、シニア層の受け入れに積極的な大学は増えている。学費などの支援策も充実してきた。

働く中で得た興味 大学でもう一度 50代からのキャンパスライフ



ゼミの教授に指導を受ける大島哲子さん(6日、作新学院大学)

50代からの キャンパスライフ

だが、1年もたつと仲の良い友人もできた。「謙虚に何でも吸収しようとする姿勢が大事」と振り返る。18歳人口の減少などを背景に、社会人に門戸を開く大学は増えている。「受験勉強が大変」と尻込みしてしまうが、入試科目を面接や小論文に絞っている大学が多い。

国立大で早くから「シニア枠」を設けているのが広島大。01年度に導入した「フェニックス入学制度」は50歳(一部は60歳)以上が対象。文学部や総合科学部など計6学部は毎年10人程度が入学している。

仕事をしながらでも通学しやすいよう、通常の修

業年数を超えて履修して卒業できる「長期履修制度」も用意した。4年間の学費で最大8年間大学に在籍することができると、入学者数は増えている。文部科学省によると、入学初年度に必要な学費は国立で約82万円、私立で約131万円。老後の蓄えを考えると、金銭面のサポートを設ける大学もある。

大阪商業大学(大阪府東大阪市)では、55歳以上を対象に「年齢×1万円」(最大74万円)を授業料から割り引く。作新学院大も55歳以上は入学金と授業料が半額。同大によると、現在約10人が制度を利用して、担当者は「もっと多

学費などの支援策も充実

くのシニアに利用してほしい」と話す。

より専門的に学びたいのであれば大学院に進学する選択肢もある。東京経済大(東京都国分寺市)の「シニア大学院制度」は52歳以上の学士資格を持つ人が対象。2年だけでなく、3、4年かけて修了することを認めるなどした。

同大の大学院博士後期で学ぶ大島昌子さん(65)は、管理職向けのセミナー、講師を務めながら「コミュニケーション」学を研究する。「学びたいという意欲は何歳になっても一緒。来年度からは仕事も減らして研究に打ち込みたい」と意気込む。(玉岡宏隆)

入試対策 小論文の練習必要

学びへの意欲はあっても、若い頃のように「徹夜で受験勉強」というわけにはいかない。シニア層はどのような準備をすればよいのか。社会人入試に詳しい専門家にポイントを聞いた。

選抜方法の多くは面接と小論文。進学を目指す社会人などを教える「キズキ共育塾」の半村進講師は「論理的な文章を書く練習が必要。大学院などを経験した人に

学への意欲はあっても、若い頃のように「徹夜で受験勉強」というわけにはいかない。シニア層はどのような準備をすればよいのか。社会人入試に詳しい専門家にポイントを聞いた。

選抜方法の多くは面接と小論文。進学を目指す社会人などを教える「キズキ共育塾」の半村進講師は「論理的な文章を書く練習が必要。大学院などを経験した人に

シニア入試心得の5カ条

- 論理的文章を書く練習を
- 周囲の理解を得てから入学
- 若者には「教わる」姿勢で
- 学費補助のリサーチは事前に
- 迷ったらオープンキャンパスで雰囲気を知る

添削してもらおうのが一番」と話す。大学が求める学習者像を把握するために「説明会に足を運び、大学の特色を理解することも大切」と助言する。

入学後の過ごし方も重要だ。情報サイト「オールアバウト」で「社会人の大学・大学院」ガイドを務める西島美保さんは「働いている人は上司に事前に相談をして柔軟な働き方を前もって申告すべきだ」と周囲の理解を得ることを勧める。気持ちよく学生生活に打ち込むため、周囲のサポート体制は必須だ。

入学後は若者と同じ教室で学ぶことになるが、西島さんは「働いていた時の地位は忘れられるくらいがいい」とアドバイス。「パソコンの使い方など、若者に「教わる」姿勢でいけば交流も増え、次第になじめるようになる」と説く。